

例えば洞爺湖温泉と登別温泉という二大観光地に、伊達市がどういう貢献ができるのか、登別市と洞爺湖町から提案してもらい、もう少し分りやすく議論してビジョンを積み上げていくという必要があります。ビジョンを積み上げ、この地域の将来の夢を語らないと、なかなか現実論の議論ばかりでは、合併論はうまくいかないと思います。次のステップでは、少しでもたたき台を示せるようなものがあつたら良いと思います。



登別市長
あきらの 晃

地域の人の幸せを考え
行政サービスのあり方を
考えるべき

北海道全体の活性化を図るためには、札幌と対抗するのではなく、情報集積地や物流の中心地、経済の中心地である札幌を活用して、それに連携する圏域の発展を考える必要があります。単独ですべてを網羅して活性化を図ることは、個々の市町村では不可能であり、地域での連携が必要だと思います。いろいろな業種がかかり合い、それぞれが持つ技術や特性を生かす

ことによって、新たなビジネスを生み出すことができるのではないのでしょうか。域内のさまざまな産業を組み合わせることで、産業の複合化や入ってきたお金を域内で循環させることが可能になります。

地域の人たちの幸せのために、どういうことが必要かを考え、その上で求める行政サービスのあり方をどうあるべきかを考えるのが本来の姿です。

将来のまちのあり方を考えていくためには、どういふ問題があるのか、一つ一つ洗い出していくことによつて、将来のビジョンというものが描けるのではないのでしょうか。

目標を持った具体的な
ビジョンをつくり住民と議論を



室蘭市長
しんじの 新宮

この西胆振は古くから住民の方々の連携があります。その古い歴史の住民のつながりから、現在のごみ処理や電算、消防の問題などで連携できているのではないのでしょうか。

今、急激な人口減少がこの地域であります。やはり札幌圏などと差別化を図っていかなければ、この地

域の発展はないと思います。

この地域でも、それぞれが特色を生かしたまちづくりを進めています。さらにこの地域の持っているポテンシャルを総合的に融合させていくことが大事だと思います。

働く場がないことから、中央に人口が流出していく傾向があります。いまこそ、この地域で雇用を起こし活力をつけるために、地域が連携し、合併に向かっていく現実的な議論を本格的に進めていかなければなりません。

新法の期限である平成22年3月までに、ある程度目標を持って、この西胆振は将来どういうまちになるのか、具体的なビジョンをつくり、住民と議論していく必要があります。

今回の西胆振地域連携フォーラムでは、市町村合併は手段の一つであり、合併そのものを目的とするのではなく、住民の幸せを考え、地域の特性を生かした将来の西胆振の姿を描くために、何が重要であるか見極めていくことが重要との考えが示されました。

わたしたちのまち『のぼりべつ』はもろろん、西胆振圏が元気な地域であるためには、行政や企業だけで課題に取り組んでいくのではなく、西胆振に住む一人一人がこの地域に何が必要かを考えていく必要があります。

◎観光客入込客数

順位	都市名	人数(千人)
1	札幌市(定山渓)	14,104
2	西胆振圏	11,455
3	小樽市	7,697
4	旭川市	6,977
5	函館市	4,865
6	千歳市	4,297
7	釧路市(阿寒)	3,984
8	洞爺湖町	3,207
9	登別市	3,094
10	喜茂別町	2,992

北海道 140,428
(平成18年度北海道)

◎広域連携の状況

区分	室蘭市	登別市	伊達市	洞爺湖町	豊浦町	壮瞥町
西いぶり 広域連合	共同電算関連	○	○	○		○
	一般廃棄物 処理関連	○		○	○	○
西胆振広域圏 振興協議会	○	○	○	○	○	○
室蘭地方総合 開発期成会	○	○	○	○	○	○
西胆振消防組合			○	○	○	○

問い合わせ
企画グループ
☎1122
Eメール:kikaku@city.noboribetsu.lg.jp